毎月5日・15日・25日発行(ただし1月5日、5月5日、8月15日は休刊)　ISSN 1881－4417

ROTOBO Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会　2018年(平成30年)3月5日号　No.1753

目　次

2017年のロシアの貿易
―相手国としての日本の地位は低下― 1
統計速報 7
2018年1月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／7
2018年1月の日ロ貿易／8
トピックス 9
商船三井が北極海航路と極東開発で協業覚書／9
カザフ大統領が閣議中のロシア語使用を禁止／9
NEDO、ロシア極東で風力発電の実証実験／10

2017年のロシアの貿易
―相手国としての日本の地位は低下―

はじめに

ロシア連邦関税局が2017年のロシアの通関統計の概要を発表したので、今号の速報ではこれにもとづき2017年のロシアの貿易概況を表にまとめてお届けする。

ロシアの貿易額がピークだったのは2012年であり、その後4年連続で貿易が縮小していたが、2017年にはようやく回復に転じた。すなわち、通関統計によれば、2017年のロシアの貿易総額は5,840億ドル(前年比24.8%増)、うち輸出が3,571億ドル(25.0%増)、輸入が2,270億ドル(24.5%増)、収支は1,301億ドルの黒字だった。

ただし、表1、表3を見ると、2017年にロシアの貿易が大幅に伸びたのは、エネルギー、とりわけ石油・ガス輸出の回復によるところが大きかったことが読み取れる。その際に、2017年に原油および石油製品の輸出量はむしろ減少し、天然ガスの輸出量は小幅な伸びに留まったにもかかわらず、輸出額では20%を超える伸びを達成している。つまり、2017年のロシアでは、油価回復の恩恵で輸出増を遂げ、それによる外貨収入の拡大に伴い輸入も増えたということになるわけで、この間ロシアが目指してきた非資源・非エネルギー輸出の拡大、輸入代替といった方向性とは逆行した面がある。

表5、表6に見るとおり、2017年にロシアと日本の貿易は拡大している。しかし、その伸び率はロシアの貿易全体のそれを下回っており、その結果ロシアの貿易相手国としての日本の地位は低下してしまった。2016年には日本はロシアの第7位の貿易相手国で、3.43%のシェアを占めていたが、2017年には第9位、3.13%に後退した。特に、2017年は歴史上初めて、ロシアの貿易相手国として日本が韓国の後塵を拝する年になった。